

ブックステーションはびきのコロセアム ☎ 937-7210(火・木・金曜日 13:30～16:30) ブックステーション青少年児童センター ☎ 952-0032(月～土曜日 9:00～17:00)
古市図書館 ☎ 958-0050(水～日曜日 10:00～17:30)

読んでみませんか？

～新刊案内～

『夢を売る男』

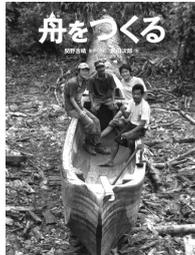
百田 尚樹／著 太田出版

「現代では、夢を見るには金がいるんだ」作家としての成功を夢見る人々から巧みに大金を引き出し、クズ本を量産する出版社の内幕を描く「フィクション」です。



『舟をつくる』

関野 吉晴／監修・写真
前田 次郎／文 徳間書店



砂鉄を集め斧やナタなどを作り、それで大木を切り倒してくりぬき、ヤシの葉を織って帆に仕立てる。「縄文号」は、大昔と同じ製法で作られた舟。その行き先とは？

『古墳のある風景 古市古墳群の四季』

細見 克／(他)文
保田 紀元／写真
古墳のある風景刊行会

世界遺産を目指す古市古墳群の、四季おりおりの美しい姿を捕らえた写真に、熟練のガイドによる解説と歴史エッセイを添えた一冊。史跡めぐりの友に最適です。



『どどのろう』

穂高 順也／著
こばやし ゆかこ／絵 岩崎書店



3つの願い事をかなえてくれるという泥人形「どどのろう」を手に入れた悪党2人組は、人形の力で恐ろしい化け物に変身、大暴れますが…

おはなし会

4月 7日(日)	陵南の森図書館	14:00
4月 10日(水)	東部図書館	10:30
4月 13日(土)	羽曳が丘図書館	15:00
4月 14日(日)	陵南の森図書館	14:00
4月 20日(土)	陵南の森図書館	15:00
4月 20日(土)	古市図書館	15:00
4月 21日(日)	陵南の森図書館	11:00(小さい子向き) 11:30(少し長いお話を聞ける子向き)
4月 27日(土)	丹比図書館	10:30
4月 27日(土)	羽曳が丘図書館	15:00
4月 28日(日)	陵南の森図書館	14:00
4月 7日(日)、14日(日)、21日(日)	中央図書館	13:30

子どもの読書週間おはなし会

4月 28日(日) 中央図書館 14:00

今月の休館日

4月 30日(火)

※図書館は月末日を除き、日曜・祝日も平常どおり開館しています。
※野々上東ブックステーションは3月末日をもって閉館しました。

サラダボール

「子どもはおとなの鏡？」

私の子どもがまだ幼い頃、絵本を読んでいるときに、何かしらしきりに自分の指をなめている姿をよく目にしました。あまりにも指をなめる回数が多いので、ゆっくりと話を聞くと、どうも私が新聞や雑誌を読んでいて、ページがめくりにくいときに、つい指先を舌で湿らせるのを見て、「本を読むときには指をなめる」という子どもの行動に反映されていたことが分かってきました。

そういえば、子どもの何気ない仕草を見ると、どこか見覚えのあることも多く、よくよく考えてみると父親である私自身の癖だったり、母親の癖

だったり、まるで親の行動を映す鏡のように、物事を吸収していることに気づき、驚いたことを覚えていきます。

子どもが成長する過程で、最初はみんな純粋で何も無い状態からはじまり、見たり聞いたりしたことを基に、多くのことを学んでいくと私は思っています。当然、最初から判断基準などありませんから、その良し悪しに関わらず、見たことや聞いたことを「真似る」ことから始めます。先ほどの本を読むときの行動のように、「ページをめくりやすくなるために」という目的が抜け、「本を読むときには指をなめる」という短絡的な結びつきをしてしまうこともあるのでしょう。

特に子どもが最初に出会う「おとな」である親の言動は、真っ白な

「無」の状態に、最初に筆を入れるがごとく大きなインパクトとして、子どもにとって後々まで深く影響することになると思います。また、親だけでなく周りの「おとな」の一つひとつの言動も、子どもたちのモデルとなります。それが子どもの善悪の判断基準や行動パターン、あるいはコミュニケーション能力が育成される基盤となっていくのだと思います。

そのようなことを考えると、街を歩いているときに、車通りの少ない道の横断歩道で、多くの人が様子をうかがいながら「赤信号」で渡っていても、どこかで見ているかも知れない子どもたちのために、どんなに急いでいても、足を止めて「青信号」になるのを待とうと思うようになりました。

はびきのしじんけんけいはつすいしんきょうぎかい
羽曳野市人権啓発推進協議会